

Top Interview

靴で高齢者の所在確認



システムインナカゴミ
中込 裕 社長

ソフトウェア開発やパソコン販売を手掛けるシステムインナカゴミ(中央市)は、認知症で徘徊する高齢者向けに小型GPS(全地球測位システム)を内蔵し、位置情報を知らせる靴を開発、発売した。高齢者の見守りグッズにはGPS機能付きの携帯電話などがあるが、外出時に履く靴に着目した製品は初めてという。今後の展開などを中込社長(59)に聞いた。

商品名は「見守りシューズ」、パソコンやスマートフォン。高齢者が迷子や行方不明になった場合、かかとので地図に居場所を表示する靴底部分に組み込んだ小型GPS発信機の電波を携帯から1分程度で検索できる。電話の基地局を通して受信

商品化に当たっては県外

4年前に携帯電話を活用

の靴メーカーや電機機器メーカーと提携。靴は高齢者用で片足200gと軽量で防水機能も備えている。ワイヤレスの専用充電器が付属し、1回の充電で最長400時間(約17日)使用が可能で、GPS発信機の電池が少なくなるとメールで通知する機能も付いている。価格は検索システムなども含め利用期間2年で6万円(税抜き)。

3Dプリンター販売も開始



販売を始めた「見守りシューズ」(丸写真)は靴底に内蔵されたGPS発信機)

した高齢者向けの緊急通報システムを手掛けたことを機に認知症高齢者の「見守り商品」の開発にも着手。ベルトやお守り袋などを検討したが、身に着けず外出してしまつことも多いため、靴を商品化することに決めたという。

4月から発売し、年間100足の販売を見込んでいた。既に県内で3件の注文があり、早期発見につながったケースもあったという。今後は設定したエリアから外に出た場合、メールで知らせるなど「徘徊を事前に防止するソフト」などの開発に力を入れていきたい。

中込社長は「好奇心旺盛に先進技術を取りしながら弱者に優しく安全安心で、わくわくする社会の実現に貢献していきたい」と話している。

システムインナカゴミ 1982年設立、従業員約80人、年商14億円(2014年9月期決算)。